



ロゴマーク デザイン学部メディアデザインコース1期生 木村 尚史



仙厓義梵「指月布袋画賛」(出光美術館)

巻頭言

図書館・再考／知的スタイルの原点 札幌市立大学附属図書館長 中原 宏

特集1 古きにまねぶ

室礼にみる日本の美意識

一藝から晴のデザインへー

札幌市立大学デザイン学部・デザイン研究科 羽深 久夫

養生の教え

札幌市立大学看護学研究科 加藤 登紀子

茶の湯からまねぶこと

札幌市立大学デザイン学部・デザイン研究科 上遠野 敏

三枚のお札一心に残る昔話ー

札幌市立大学看護学部・看護学研究科 松浦 和代

特集2 良書良薬

デザインと小説

札幌市立大学デザイン学部・デザイン研究科
望月 澄人

花輪和一考

札幌市立大学看護学部・看護学研究科 新納 美美

学生の本にまつわる話

附属図書館貸出・視聴ランキング

図書館情報

札幌市立大学
附属図書館

SAPPORO CITY UNIVERSITY



<http://www.lib.scu.ac.jp/>

筆者紹介
空間デザインコース・教授。工学博士。専門は都市計画。「人がまちを創り、まちが人を創り育てる」を信条に、新しい計画理念や手法を研究し、実際のまちづくりへ展開している。趣味はクラシックギター（演奏および音楽研究）。多彩で美しい音色の織りなす世界の創造は、まさに「まちづくり」そのものである。



イラスト・メディアデザインコース3年 工藤 寛子

■
幼少の頃、「寄り道をしてはいけない」と躰られたが、大人になるにつれて、逆に「寄り道」の効用が分かってくる。インターネットを活用して新刊書の情報検索や注文、好きな音楽のダウンロードができる今日でも、私は書店や楽譜店、CDショップに足を運んでいる。なぜなら、購入目的の有無にかかわらず、店内において偶然の発見があるからである。お宝本や、未知の珠玉小品(曲)との出会いがある。

辞書も電子辞書ではなく、紙の辞書を好んで用いる。検索だけならば電子辞書が速くて便利なことは論を俟たない。しかし、紙の辞書を用いた場合、目的の語句を探す際に、その前後の頁を読みながら新たな発見をする、あるいは、懸案の意味不明語句に遭遇することがしばしばある。

私はこれらの行為を「知への寄り道」と呼んでいる。「図書館」は格好の「知への寄り道」の場である。

■■
2010年は「電子書籍元年」といわれた。アップル社のiPadの登場を発端として、

国内においてもメーカーによる電子書籍端末の発表や、通信事業者も交えた電子書籍市場支配の動きが活発である。グーテンベルクの活版印刷発明以来の大転換が始まろうとしており、紙媒体の「本」は危急存亡の秋にある。

電子書籍化が進展していけば、紙の本の新刊は確実に減少することから、出版社や書店のみならず、図書館も形を変えていかざるを得ない。インターネットを利用してWebですべての書籍を閲覧できるのであれば、図書館は不要になるという見方さえもある。

■■■■
電子書籍化の流れの一方で、現代社会は情報の洪水の中にある。大量の情報があるのに、的確な情報にアクセスできないことが多々ある。インターネットを活用して探したいものがあったとしても、本当の意味で見つけ出すためには多くの時間とエネルギーを浪費することがよく起る。これは情報を調べるための方法や仕組みがないことに起因する。この意味で、情報に対するアクセスを支援してくれる組織の出現が求められているという過言ではな

い。図書館の新たな使命はそこにある。今後、書籍の電子化がいつそう進展することを背景に、図書館は収蔵されている膨大な情報の中から、利用者のニーズに応じて必要な情報を提供するとともに、利用者の必要とする課題解決のために、新たなレファレンスサービスを提供していくことが求められるであろう。

■■■■
本は時代とともに変化していくのであって、消滅することはない。「活字文化」の重要性を主張する声もあるが、「活字」そのものは既に印刷の現場から姿を消している。しかし、「本」が消滅したわけではない。紙の本には、手に取ったときの重さの手応えや、特有のにおい、色、質感、手触りがあり、それらも読書の楽しみであることから、紙の本は決してなくなり、電子書籍と共存していくと思われる。

図書館固有の大量の本の存在感は、そこに一步踏み込んだ人を圧倒する。まさに、図書館は「異空間」であり、「知へ誘う空間」であることを無言で語っている。

●
1冊の本との出会いが、その後の人生に大いなる影響を及ぼすことがある。私の場合のその1つは、梅棹忠夫氏（1920～2010）が1969年に著した「知的生産の技術」（岩波新書）である。当時、高校生であった私は、書店でそのユニークな書名に惹かれて思わず手にとり、強い衝撃を受けたのを覚えている。氏は、わが国の文化人類学のパイオニアであり、大阪万博跡地に国立民族学博物館を建て、その初代館長を務めた「知の巨人」である。ベストセラーとなった同書は、その後も多くの人々に読み継がれ、ロングセラーとなっている。

●●
「学校では知識は教えるが、知識の獲得方法については教えてくれない」と指摘する氏は、同書により、メモのとり方、カードの利用方法、原稿の書き方など、創造的な知的生産を行なうための技術について、氏の実践をもとに提案した。その中で、とりわけ斬新だったのが「京大式カード」である。これはB6判の厚口紙で、1枚のカードに思いついた事柄や、発見した事柄を1つだけ書くルールを用いる。やがて、このカードがたまってくると、類似の事柄や、不足の知見が見え始める。そこで、それらのカードを並べ替えることにより新たな発想を導

くのである。すなわち、紙を綴じたノートでは情報の組み換え作業ができないので、情報をカード化し、関連性の発見と統合のために役立てるのである。

その後、この「京大式カード」は、大学教員のみならず、学生、ビジネスマンにまで大きな広がりを見せた。パソコンによる検索・情報管理がごく一般的に行われる現代において、このような手書きカードによる情報管理は前時代的な技術と思われがちである。しかし、パソコンで大量の情報の中から機械的に検索するのは異なり、カードを実際に目で見ながら「繰る」という行為の中で、新たな閃きや連想が生まれる点は極めて興味深い。

また、情報カードのみならず、同書には「手帳」「整理と事務」「読書」「手紙」「日記」「原稿」など、「読むこと」「書くこと」に関わる様々なアイデアが満載されており、同書の「合理的思考法」は出版後40年以上経った今日においても、読む人に対して鮮烈な印象を与える。

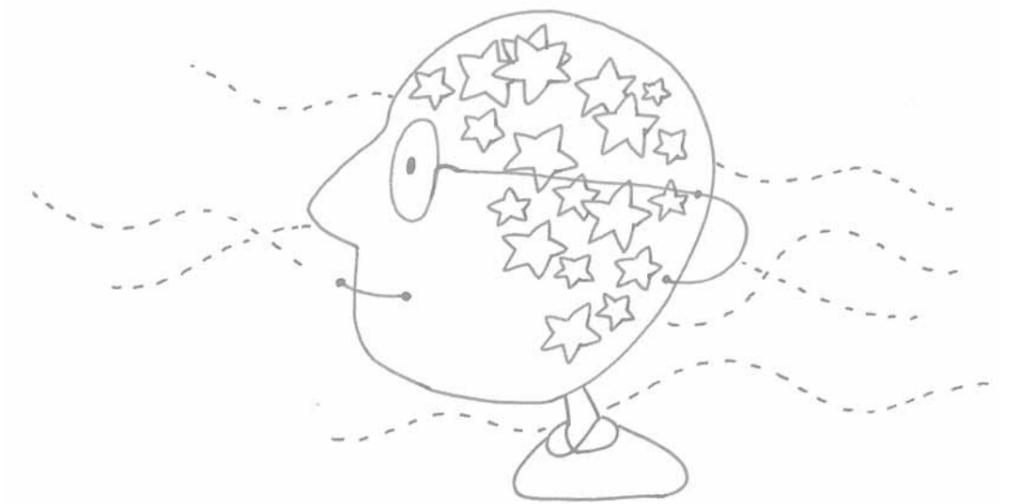
●●●
同書に啓発された私は、大学入学以来「京大式カード」を大量に買い、「新聞コラム評」「アイデア」「浮かんだメロディー」「人物エピソード」「新刊案内」「〇〇の七不思議」「座右の銘」など、せっせと書いては専用の

ボックスに入れ、暇をみては繰るのを楽しんできた。その後も、原稿・メモ用紙（A4判、オリジナルデザイン）、情報カード（名刺サイズ、6色）、手帳（スケジュール管理）、文具、名刺のデザイン、資料のファイリングなどについても工夫と改良を続け、今日では独自のスタイルを持つに至っている。研究室や自宅書斎のレイアウトも同様である。振り返ってみると、このようなスタイルの原点は、実は同書にあり、単なる模倣ではなく、それをヒントにしながらも、自分独自のスタイルを実践してきたことが大きい。

●●●●
このように、青春時代の何気ない1冊の本との出会いが、その人のスタイルや、思考方法、生き方、価値観の形成に少なからぬ影響を与えることがある。しかも、その出会いは決して偶然ではなく、追究するものに対する臆げないイメージを持ち続けていると、必然的に起るような気がしてならない。人と人との出会いにも通じるものがある。

知的生産の技術 / 梅棹忠夫編
岩波書店 1969 (岩波新書)

知的スタイルの原点イ点ル



イラスト・メディアデザインコース3年 工藤 寛子

羽深 久夫

特集1 古きにまねぶ室礼にみる日本の美意識
一 藪から晴のデザインへ

しつらい（設い）は、「請客饗宴・移転・女御入内その他、晴の儀式の日に、寢殿の母屋および廂に調度を整えること」（広辞苑、岩波書店）の意味で、「室礼」「舗設」は当て字とされている。意味から推し量れば、儀式（公事・神事・仏事または慶弔の礼などに際し、一定の規則に従って行う作法やその行事）と行事（一年の恒例としての事を執り行うことやその事柄）を行う際の場となる、寢殿造における中心殿舎の寢殿に整えられる衝立・几帳の屏障具や円座・茵などの座具などの調度品の置き方を指すのである。その具体的な内容は『年中行事絵巻』や『類聚雑要抄函巻』『大内裏図考証』に詳細に描かれている（関係する文献資料は、本学附属図書館に所蔵されている）。

寢殿造という寢殿は、天皇が生活した内裏の「紫宸殿」と、東三条殿などの公家が生活した貴族の「寢殿」では、間取りや殿舎構成が大きく異なっている（殿は宏大な家屋、舎は仮に宿る場所、住居などに使用する建物を目指す）。東三条殿では寢殿に「塗籠」が設けられ寢所に充てられているが、内裏では大陸の律令制度の影響を受けた結果、紫宸殿ではなく清涼殿に天皇の寢所である「夜の御殿」と天皇の御座所である「昼御座」が設けられていた。寢殿造が完成する平安時代より前の奈良時代の貴族の住宅は、現在の法隆寺東院にある夢殿の北側にある伝法堂がその遺構で、前身建物は橘夫人の住宅とされている。橘夫人の住宅は、寢所と考えられる閉鎖的な「室」と昼の居場所である開放的な「堂」の二室構成で、堂の前に露台が設けられていた。飛鳥時代以前の上層階級の住宅を示す遺構は確認されていないが、その前の古墳時代の豪族の建物は『家屋文鏡』（奈良県佐味田古墳出土）

に詳細に描かれている。そこには、露台と傘、梯子のある「高床住居」、「平地住居」、露台と傘、突上げ戸のある「竪穴住居」、「高床倉庫」の四棟の建物が描かれ、現在この四棟が、日本国と呼ばれる前の倭国（倭は和と同義、訓読みではいずれも「やまと」、大倭と大和も同義）の時代に日本列島にあった建物と考えられている。『家屋文鏡』の高床住居と平地住居は三間構成（柱が四本あり、柱の間が三つあるという意味）で、橘夫人の住宅の室も三間構成であり、清涼殿の夜の御殿と東三条殿の塗籠は二間構成であるが付室部分を入れると、同じく三間構成になる。

当て字とされる「室礼」の「室」は、三世紀末から始まる古墳時代に奈良県に住んだ豪族の高床住居、平地住居のような寢所に充てられたと推定される閉鎖的な建物や部屋を指すと考えてもよい。即ち、「室礼」とは寢所となる部屋や建物の内部に置く寝具を含めた調度類の置き方や飾り方を指すのであろう。竪穴住居も昼の生活の場というよりも寢所としての建物と考えられるので、三世紀以前から、寢所をどうレイアウトするのかは重要な問題であったのだろう。

日本の美意識、つまり日本列島に住み続けた人々が醸成してきた「美」は、狭義の意味では寢所とその周りの部分のデザインにその源流がある。美意識は「晴」の部分のデザインから生まれたものでなく、寝ることを中心とした日常生活である「藪」の部分のデザインから認識、思考、感知されるようになったと言って過言ではないようだ。寢所を中心とする日常生活の場である藪の部分のデザインから始まった「室礼」が、倭国から日本国に、中央集権の律令制国家として形成されてゆく中で、『家屋文鏡』に描かれた住居が、

著者紹介
空間デザインコース・教授。博士（工学）。建築史を専門とし、日本の武家屋敷からアルメニアの教会建築まで、洋の東西を問わず研究の対象としている。15年前に北海道へ移り住んでからは、開拓使文書の研究や札幌市文化財保護の活動にも従事している。また、NPO法人の活動を通して北海道に残る民家の保存・再生事業にも取り組んでいる。

橘夫人の住宅へと、寝殿造へと発展的に展開してゆく中で、中心殿舎である寢殿で行われる正式な儀式・行事の場の調度類の整え方に変容してゆく過程は、日常生活のデザインであったものが、「晴」のデザインに発展してゆく過程を明確に示している。

我々が忘れてはならないのは、デザインとは特別なものを対象にした場合に生まれるのではなく、日々のありふれた生活を注視してゆく中で生まれ、醸成されるものであるということである。そのことは、近代において産業革命による急速な工業化の中で、アーツアンドクラフト運動が生み出したデザインをみれば、同様なことが言える。日本に限らず、世界においてもそれぞれの民族や国の固有の美意識は、日常生活の場である「藪」のデザインから生み出されてくるものであろう。その美意識は、それぞれの歴史的・文化的背景により固有の展開・変容を経て、形成されるのであろう。そう考えると、本来的に、「晴」と「藪」に二分する区分け自体が意味のないことで、日常生活の場である「藪」の部分のデザインこそが、デザインの王道、本質と考えられるのではないだろうか。



イラスト・メディアデザインコース3年 萩原 拓矢

加藤 登紀子

特集1 古きにまねぶ

養生の教え

名著「養生訓」の魅力をも、まず前置きなしに抜粋にて紹介します。

「楽しみを失わざるは養生の本（もと）」：「楽しみは是（これ）人の生まれつきたる天地の生理なり。楽しまずして天地の道理にそむくべからず。」

「真に人生を味うには長生が必要」：「人生五十にいたらざれば、血気いまだ定まらず、…人生の理（ことわり）も楽しみもまだ知らず。長生すれば楽多く益多し。学問の長進することも、知識の明達なることも長生しざれば得がたし。」

「人の命は我にあり、天にあらざ」：「人の命は我にあり、天にあらざ、と老子いへり。人の命は、もとより天にうけて生まれ付たれども、養生をよくすれば長し。養生せざれば短かし。然れば長命ならんも、短命ならむも、我心のままなり。」

「心に主たるものあるべし」：「養生に志あらん人は、心に常に主あるべし。主あらば、思慮して是非をわかまへ、忿（いかり）をおさえ、慾をふさぎて、あやまりすくなし。」

「養生を害するもの一過度と安逸」：「養生の害二あり。元気をへらすことと、元気を滞（とどこお）らしむることなり。飲食・色慾、労働を過せば、元氣やぶれてへる。飲食・安逸・睡眠を過せば滞りてふさがる。耗（へる）と滞ると、皆元気をそこなふ。」

「満ち足ることは憂いの始まり」：「万（よろず）の事、十分に満て、其上にくはへがたきは、憂ひの本なり。古人の曰、酒は微酔にのみ、花は半開にみる。酒十分にのめばやぶらる。花十分に開けば盛過て精神なく、やがて散りやすし。」

「畏・慎は長命の基」：「長生の術は心気を和平にし、事に臨んで常に畏（おそれ）、慎あれば物にやぶられず、血気をのずから整ひて、自然に病なし。是長生の術也。此術を用ひば、此術の貴（たつ）とぶべき事、あたかも万金を得たるよりも重かるべし。」

引用文献

貝原益軒 / 松田道雄責任編集
中央公論社 1983 (中公パックス; 日本 の名著; 14)
(芸術の森 2 F開架 081/Nih/14)

養生訓; 和俗童子訓 / 貝原益軒著; 石川謙校訂
岩波書店 1961 (岩波文庫; 青(33)-010-1)
(芸術の森文庫・新書 080/lwa/青10-1)

人生に楽しみをもつことが人の生理で、何よりも養生になる、とは、うれしい言葉ですね。

心に主たるものをもつとは、倫理感をもって生き、何を成し遂げたいか、このことを、畏敬の念をもっていつも追及し続けることではないでしょうか。

長い間、企業で健康相談を受けもたせてもらった経験から、「心に主たるものもつ」ことが人生を元気で過ごしたいと願う第1歩、と痛感しています。これさえあれば、食事や運動といった各論的配慮は、情報さえあげれば、殆どの場合自然にうまくできるようになります。

貝原益軒さん（1630年11月14日～1714年8月27日、福岡県）が「養生訓」を書いたのは83歳、儒学を修養した養生の実践家としての哲学を伝えたものです。著述はほかにも多く、教育者で愛妻家で大変な旅行好きでもあったそうです。20歳以上も若い奥さんと何度も京都などに旅行しています。しかし「養生訓」を著述する前後で、61歳の奥さんを亡くし、その翌年に益軒さんは84歳で著述を成し遂げて他界しました。

益軒さんのエールを、どうぞ皆さんの生き方に活かして下さい。



イラスト・メディアデザインコース3年 萩原 拓矢

上遠野 敏

特集1 古きにまねぶ

茶の湯からまねぶこと

日本には世界に誇れる創造性豊かな作品が数多く残っている。運慶の無著・世親像や重源上人像は世界の肖像彫刻の中でも神氣に迫る傑作である。日本人は鎌倉時代に世界に先駆けてハイパーリアリズムを獲得している。尾形光琳の脱いだ服を入れる二つの「流水図乱箱」は、晴れた日と曇りの日の水面の線と面を対で表した抽象性に富む観念芸術である。芸術を特権階級が享受していた時代に、日本では江戸時代に大衆が芸術を享受している。浮世絵がプロマイドや名所図として愛され、判じ物がゲームとして親しまれた。芸術の大衆化は世界の先駆けであり、ポップアートやメディアアートとも言える。中国から伝わって来たお茶をセレモニーとして高めた国々はあっても、創造活動として芸術の域まで高めた国は日本以外にはない。この素晴らしい芸術・文化・文明を日本人は明治時代に断絶する。自国の文明は野蛮で取るに足らないものとして、マレピトを崇め西洋文明を推奨して欧米列強に追いつこうとした。日本人のリセット願望や寛容な受入れは神道の八百万の神の柔軟な精神とも通じていて、変容するのは歴史が証明している。

明治時代に日本の芸術文化を調査して、その素晴らしさを啓蒙した岡倉天心は「茶の本」の中でこのように述べている。「**自己のなかの大きいもの、小さいもの、小さいもの、大きいものを看過しがちなものだ。**」西洋優位の視点から形成された日本文明の矮小化に対して、天心は茶の湯を通してその崇高さを何としても知らしめようと決意している。日本の文明と思想を英文で紹介した「茶の本」は1906年に

アメリカで出版された。簡素で粗末をやつした「わび茶」の世界観には創造的かつ深い精神世界であることを示した文明論である。この一説は、その後、日本が国力を増し日露戦争や韓国併合や中国への進攻に際して、日本に向ける鏡像となるのは皮肉なことである。私たちは、人を敬い一期一会の精神が日々どうであったのかを問われる言葉としたい。肝に銘じたいものである。

茶の湯の発展には禅と密接な関係があり先人から学ぶべきものが多い。禅の「**直指人心 見性成佛**」は「あれやこれや迷わず己の中に仏がいるのだから自己をよく見つめなさい」とポジティブシンキングで励ましを与えるのだからありがたい。茶の湯は実践と創意工夫から磨かれた美学である。わび茶の始祖の村田珠光は足利将軍の推奨する唐物中心の茶器に国焼き(和物)の素朴さを取りいれて「**月も雲間のなきはいやに候**」と不完全の美は侘びにかなうと教え「**さかいをまぎらかす**」と既成の価値観(唐物)ではなく、自己の信念の通り(和物)自分の物差しで美の基準を示す事を提唱した。利休の師である武野紹鷗は侘びの要点とは「**正直につつしみ深く おごらぬ様**」。「**いづれの芸も下手の名をとるべし**」と下手と思う心から次が生まれると、謙虚な心のあり様は染み入るようだ。連歌師心敬の美学を茶の湯の理想として「**枯れかじけて寒かれ**」と「**冷え枯れ**」の侘びの境地を体現化させた。これらの先人を踏まえてわび茶を集大成したのが千利休である。利休は「**四規七則**」を茶の基本とし、「**和 敬 清 寂**」の心をもって「**茶は服のよきように点て、炭は湯のわくように置き、冬は暖かに夏は涼しく、**

著者紹介
メディアデザインコース・教授。現代美術制作、現代美術研究、日本の美意識研究。アートディレクターとして産学連携プロジェクトや炭鉱遺産を活用したアートプロジェクトなどで地域貢献を行っている。



イラスト・メディアデザインコース3年 豊木 梨央

花は野の花のように生け、刻限は早めに、降らずとも雨の用意、相客に心せよ」とおもてなしとふるまいの心を説き「**茶の湯とは只湯をわかつて茶をたてて呑むばかりなる事と知るべし**」とシンプルである。一見単純なようであるが、これが出るならあなたの弟子になりましようとい利休本人が言っているほどであるから奥が深い。当たり前のごとくに心を砕いてできる人はそう多くない。利休は禅の流れを汲みながら総合芸術として草庵のわび茶を完成させ、厳格な規範を説いて「**時々刻々と自己否定しながら、創意工夫を以て意外性を創造することにある**」と驚きと感動の数々を創出した。20世紀のマルセル・デュシャンをしのぐ変革者である。モノを創造する者の指針と心の励ましとして真摯に受け止めたい。

「侘び寂び」は古色蒼然とした趣きとして捉えられるが、実はアバンギャルドの実践と創造の場だったのである。以降、茶の湯は古田織部(へうげもの)、小堀遠州(綺麗さび)とアバンギャルドが続いた。利休の躰口や露地の概念を初め数々の偉業や利休好みのアートディレクターとしての品々は出版物として広く紹介されているので詳細はそちらでご覧頂きたい。どうぞ古きにまねび造形のこころを財産として身につけてください。

引用文献

茶の本 / 岡倉天心著 ; 浅野晃訳 ; 千宗室[序と跋] 講談社インターナショナル 1998 (Bilingual books ; 28)

千利休、古田織部、小堀遠州関連の本は多数出版されています。その中にわび茶の系譜や言葉が掲載されています。

松浦 和代

特集1 古きにまねぶ

三枚のお札ー心に残る昔話ー

筆者紹介
小児看護学領域・教授。博士(教育学)。様々な教材を効果的に組み合わせたわかりやすい授業で、子どもの健康支援や発達に関心を持つ学生の心をとらえている。子どもたちの健康的な暮らしを支えるため、学校トイレや病児の教育支援などに関する研究活動を展開中。



「三枚のお札」という昔話が大好きだ。この昔話を初めて聞いたのは小学校3年生の時で、担任の先生がちょっと変な東北弁でおもしろおかしく読んで下さった。その後、本を買ってもらい、先生の語り口を思い出しては楽しく読み返した。看護師になってから、小児病棟の子どもたちにいろいろな本を読んであげたが、この昔話は1度朗読すると「もう1回」を連発される人気の1篇であった。

あらすじを紹介しよう。昔々、ある村の小さな寺に、和尚と小僧が住んでいた。実りの秋を迎え、小僧は裏山へ「栗拾いに行きたい」と駄々をこねる。裏山には恐ろしい山姥が住んでいるのだ、と和尚が言って聞かせても小僧は譲らない。和尚は仕方なく、「山姥が出たら使うがええ」と、小僧に三枚のお札を持たせた。夢中になって栗を拾っているうちに、とっぴりと日が暮れてしまった。すっかり心細くなった小僧の前に、優しい老婆が現れ、家に泊めてくれた。だが、真夜中、小僧は妙な物音で目を覚ます。見ると、月明かりの下で、あの老婆が山姥に姿を変え、大きな庖丁を研いでいるではないか！ 自分は食べられると察知した小僧は、とっさに「おら、便所さ、行きてえ」と声を上げる。山姥は「なんねえ」と言うが、小僧のしつこさに根負けし、腰に縄を巻いて便所へ連れて行く。小僧は縄を便所の柱に巻きつけ1枚目のお札を取り出し、「お札さん、お札さん、おらのかわりに返事してけるな」と拝み、窓から逃げ出した。まもなく山姥は謀られたことに気づき、小僧を追いかける。追いつかれそうになった小僧は2枚目のお札を取り出し、「大きい川、出

ろ！」と詠う。大きい川が現れた。だが、山姥はその川の水を一気に飲み干し、なおも追いかけてくる。小僧は3枚目のお札を取り出して、「火の海、出る！」と叫び、一目散に山を駆け下りる。ところが、山姥は腹に貯めた水を吐き出して、一面の火を消してしまう。からくも寺に帰り着いた小僧は和尚に泣いて謝り、かくまってもらう。そこへ現れ「小僧を出せ」と凄む山姥に、「術比べをしよう。もし、わしが負けたら、小僧をやろう。山ほどに大きくなるか？」ともちかける和尚。たやすいことだと、山姥は大きく変身する。「じゃが、豆粒ほどに小さくなるのは無理じゃろうなあ」と和尚はのんびり返す。すぐさま山姥は豆粒ほどになって、和尚の手の平にひょいと乗ってみせた。すると和尚は、囲炉裏で焼いていた餅で山姥をさっとくるみ、ぱくっと食べてしまいましたとさ、おしまい。

子どもたちが喜ぶのは、まず便所で1枚目のお札が、「まだだよ」「もうちょっと」と単調な返事を繰り返す部分。ここで必ず、クスクス笑う。それから、必死で逃げる小僧と驚異的な速さで追いかける山姥との件。子どもの頃の私も、この部分の躍動感に引き込まれ、ハラハラドキドキしたものだ。そして、最後の部分。和尚の機転にホッと、みんな、笑顔になるのである。

この昔話は、以前、TBS系の「まんが日本昔ばなし」に2度収録されており、現在もインターネットで当時の動画を楽しむことができる。実は、昨日も観た。いづれも10分程度の小品だが、観直してみても、やはり長い年月に洗われ語り継がれた伝承文学はすごいなあ、と思った。

この闊達なストーリーには無駄が一切ない。だから展開が超速いのである。そして、叡智にあふれている。しかも、大人目線の押しつけがましさを説教臭さが無い。そうした大らかさを、子どもは好ましく感じ取るのだろう。大らかさのなかで、子どもは先人の賢さを自分サイズに切り取り、自然と身につけていくのではないかと思う。

さて、久しぶりに動画を観ながら、今回は妙に山姥の強さに魅かれた。子どもの頃はお札をほしかったが、山姥代となりつつある今は、それよりも「あの体力がほしい」と思う。そのうち、和尚さんのしたたかさに老いの意味や尊さを実感する日が来るのではないかと、とも思う。

このように、私の「三枚のお札」は、いつまでも古びることのない不思議な昔話なのである。



イラスト・メディアデザインコース3年 磯野 桂

特集2 良書良薬 花輪和一 考

筆者紹介
地域看護学領域・講師。大学の教員になって11年目。「実習指導を原点とする教育」がポリシーで、学生を伸ばすための戦略を考えるのが楽しみの一つ。働く人の心理社会的発達を促す職場のあり方と健康的に働くための支援を研究テーマにしている。ここ数年は司法看護も勉強中、趣味は銀塩写真。

なしい作風と言えるのかもしれない。花輪氏の作品の多くは人の「業（ごう：仏教の言葉）」をテーマにしており、どちらかといえば、いわゆるドロドロした感じの作品が多い。初期の作品ほど人間の悪行、即ち、人が持っている様々な欲の深さ、それに伴った激しい攻撃性など、人間や社会の裏を表現した作品が目立つ。特に、暴力的な表現、ゾッとするような醜悪な表現で綴られた作品からは、遠くから「救われたい」という叫び声が聞こえてくるようである。ごく初期の作品はかなりどぎつい表現が多く好みが分かれるところだが、「よくここまで素直に出せるものだ」と感心するだけでなく、それを絵と言葉を巧みに組み合わせる表現しきる力量に圧倒される。そして、どこかに照れがあるのか、いや、それが人格のまとまりというべきものなのか、これ以上描いてはいけないというボーダーラインも存在しているように思う。「この作家はきちんと棲み分けている人なのだな」と理解できる作品ばかりであり、「つい中身を出してしまいました」という注釈を添えたいような激しい内容でも、不思議に安心して見ていられる。そして、最近の作品に近づくにつれ、無垢で心が洗われるようなシーンも増えたように思う。作品の変遷からは、表現することによって浄化されているかのようなじわじわとした変化が感じられる。

作品のあとがきその他の資料を読むと、花輪氏は実母と義父から人の子として大切にされなかった幼少時代を送っていることがわかる（彼自身の言葉で「アウシュビッツ」と表現している；初期作品集あとがきより）。母親との確執が非常に強いのだそう。女性に対する暴力的描写や、繰り返して描かれる醜悪でたたかな女性、業を浄化しようと宗教に走る女性、あるいは、怨念や復讐をテーマにしたストーリーから、その裏にある悲しみや苦しみを垣間見たような気がし

た。救われたいという叫び声が聞こえるような表現はこれだったのかとストンと腑に落ち、今後の花輪氏がどのような作品を世に送り出していくのか益々楽しみだと思えた。それにしても、あらためて作品を振り返ると、「自ら抗する力を持たない者を虐める」ということは、これほどまでに人にめぐいきれない苦しみを植えつけるものなのかと、あらためて背筋が凍るような気持ちにさせられる。その一方で、どんなに過酷な経験をして人にも立ち上がる強さがあり生きていけるものなのだと信じられる「光」のようなものも感じずにはいられない。それが花輪氏の作品である。子どもに対する虐待をはじめ「暴力」は現代社会が抱える大きな課題でもある。虐待サバイバーの一つの世界観としてふれてみるもよし、人間が自らの世界観を表現しメディアを通じて社会とつながることの意味について考えるもよしである。機会があれば、花輪氏の作品にふれてみていただきたい。心血を注いだ作品には、好む好まざるにかかわらず、共通の素晴らしさがあることを感じられるはずである。

「刑務所の中」は比較的新しい作品で、花輪氏の作品の中では万人受けするおと

りや社会現象に向き合いながら流れていく日々の生活の中で、とりわけ興味深いのは自己表現としての書物である。作品をじっくりと味わうと、遠くから作家の人となり近づいてくるようで面白い。作品を手にとり、そこから流れてくる情報を体の中に取り込み味わうことは、人と出逢い理解することとよく似ている。数え切れないほど多数の作品が流通している現象は、人間が表現せざるにいられず、他者と出逢わずにはいられない生き物であることを物語っているようだ。

たまの休日、書店で決まって立ち寄るのは漫画の売り場である。文字ばかりで表現されるのとは違った感覚刺激が心地よいだけでなく、時折、はっとさせられるような独特の世界観に出逢うことがあるからだ。装丁やタイトル・書評を手掛かりに、絵の雰囲気と作家の氏名などから感じとれるものも参考にして惹かれるものを手にとることが多い。私がこれまで作品を通して出逢ってきた作家の中で、もっとも興味深い人の一人が花輪和一氏である。

初めて出逢った作品は「刑務所の中」である。塀の中をテーマにした作品は暴露本のようなものも少なくないが、この作品は、花輪氏の知覚と感性によって捉えられた塀の中の生活世界が淡々と描かれている。作品全体が自らの存在までも視野の中に入れ込んでしまった「観察レポート」のようである。人物のセリフや地の文は少なく、驚嘆するほど精緻な絵が場の空気や物体の質感を表現している。コマの割り付け方、地の文を入れる位置も効を奏して、時間の流れ、緊張感、一受刑者の視座がリアルに伝わってくる。すべてを言葉で説明した資料には無い表現方法をとれる漫画の奥深さを感じられる。

「刑務所の中」は比較的新しい作品で、花輪氏の作品の中では万人受けするおと

イラスト・メディアデザインコース3年 豊木 梨央



特集2 良書良薬 デザインと小説

著者紹介
コンテンツデザインコース・教授。フリーのデザイナー、人形美術家、作家という多彩な経歴をもつ。現在は、CGによるイラストレーション、アニメーション作品を手がけ、先に横浜で開催された展覧会にて、「ANBD EXCELLENT AWARD 2010」を受賞。

る場合は、物語を進めるための何らかの役割を負っている。登場人物と同じなのである。私はそれを主人公に近い視点から記述する必要があった。

またこの小説は、書きたいことを次々と書いていったので、しばらくの間、終わりが見えなかった。完成後だったが、あるTVディレクターがプロットを作ることを勧めてくれた。プロットは構成や計画であり小説のデザインにあたる。良い事を教えてもらったと思い、その後は何本ものプロットを書いてみた。しかし意外にもプロットがあれば物語が出来るというものではなかった。小説を書くにはドロ잉のような感覚的行為が必要だったのである。ノリといっても良い。記述にノリがないと小説は冷めた料理のようになってしまう。どうやってノリを生み出すかはなかなか難しいが、デザインとドロ잉は理性と感覚の関係にあり、芸術作品を生み出すためには両方も欠かせない。

さて小説を書いて自分の考えていたことは実現できたのかということになる。私の書いた小説は、絵に例えれば12色の色鉛筆で描いた絵のように素朴なものだが、「世界観は表現できた。」と言っておきたい。またこの本は金箔張りの表紙やグリーン紙を使用するなど、オブジェとしての本を作りたいという私の願いをかなえてくれた。若気のいたり、あとがきに謝辞がないが、出版に導いてくれた松田行正に25年経った今、改めてお礼をいいたい。「ありがとう。」と。



イラスト・メディアデザインコース3年 磯野 桂

20代の後半、私は幼児教育番組の仕事をしていて、夜は近所のスナックで漫画雑誌を読むのが日課だった。学生の頃、将来は白い壁とコンクリートの床を持った小さな工房で人形やオブジェを制作しながら人生を送ることを夢みていた。しかし仕事に追われ、次第にそんなことが実現できるとは思えなくなっていた。作りたい作品、やってみよう企画、世の中に存在したら面白いものなどをノートに書き溜めていたが、時間が実現の可能性を蝕んでいくように思えてきていた。誰にでもあつたことだが、私は自分の将来について悲観的になっていたのだ。小説を書きたいと思ったきっかけは、文章でなら考えてきたことを残せるのでは、と思ったからだ。30代半ばに出版した「マサカヤ亭奇譚」は、そんな風にして書き始めた。

最初に思いついたのは、ますむらひろしの漫画「アタゴールの森」のようなユートピア小説である。人々の集うレストランがある。このレストランの名物は、木や石から作られた料理とネコとサルの中に生まれた不思議な生物だった。

レストランのモデルは、もちろん近所のスナック「リオ」。練馬区上井草の外れにある小さな店で、工具や出稼ぎ労働者、フリーターなどが主な客であり、愛想のない女主人が経営していたが、この店の活気のなさが気に入っていた。木や石から料理を作るという発想は、「木はセルロースという繊維から出来ているが、これを食べられるようにする物質があれば授業机でも食べられる。」と、高校時代の化学の先生が話してくれたからだ。

店があるのはアジアの小さな島国の首都「ハレルウ」。山に囲まれ海に面した町。中央に川が流れている。この地形は、私の生まれた静岡市を意識している。

主人公は画家を目指す少年なので、モチーフとして建築、絵画、音楽、装置など様々な芸術作品を登場させている。レストラン、洋品店のメニューにはシュ

ルリアリズムへのオマージュがある。例として美術史に出てくる芸術作品を多用したのはユイスマンスのデカダン小説「さかしま」の影響かもしれない(笑)。これらのモチーフは、私の実現しなかったものであったり、失われたものへの憧憬であったりして小説の特徴となっている。構成はレストランを中心とした第1部、物語が展開する第2部、後日談の第3部からできている。第3部は物語に完結性を与えるために何年か経って追加したものだ。

最初は登場する変人奇人、珍品について書けば面白い話ができると思っていた。しかし書き続けてゆくうちに、小説には感情や心理描写も必要で、大きなうねりを持ったドラマがないと話が進まないことに気づき始めた。エピソードやモチーフを文章化しただけでは物足りないのだ。当然である。この私の小説に対する楽天性について話すと、ほとんどの人が呆れた顔をする。だから時々わざとこの話しを持ち出すことにしている(笑)。物語は、当初考えたものとはずいぶん違ったスタイルに変化していった。出来上がった原稿は、詩人、デザイナーなどに見てもらった。出版できたのはそれなりに好感を持ってくれたからだ。

小説を書いてみて感じたことがある。小説表現がすぐれている点は人間を語れることである。そして人間を語ることで社会や文明についても語るができるのだ。一方、モチーフである芸術作品の文章化は、当初考えていたより難しく思えた。それは文章がいるんな視点から芸術作品を記述できるからだ。例えばゴッホの絵は、科学がもたらした印象派技法の絵画といえるし、チューブ入り絵具の発明による野外写生画、遠近法から開放された絵画と書くこともできる。またそんなことは気にせず、感性の趣くままに描いた絵、温かい絵、激しい絵といっても違和感はない。これらすべてを記述してもかまわないだろう。だが芸術作品が小説に登場す

どもの虐待は単に保護して終わりでは無いこと、幾世代にも渡って深刻な影響を及ぼすことを理解することが出来ました。

2冊目は、少し気持ちが温くなる、産婦人科医の池川明氏によって書かれた「子どもは親を選んで生まれてくる」という著書をご紹介します。

本書は、子どもたちの「生まれる前の記憶」を胎内記憶、誕生記憶、中間生の記憶、過去生の記憶の4つに分け、子どもたちが語る「不思議な記憶」について耳を傾け、命について、生まれること、生きることについて考えることを目的としています。

私の甥っ子のKちゃんがある時、「ママのおなかの中はフワフワしていたよ。」と話したことがありました。また、私自身は一卵性双生児ですが、3つ下の妹は自分が生まれる前の私たちの写真を見て、それぞれ見分けることができます。(親でさえ間違えるのに…)

生まれる前の赤ちゃんにも記憶があり、私たちのことをそっと見守ってくれている、「お父さんやお母さんを選んで生まれてきたよ。」そんな風に感じて妊娠期を過ごし、子どもを育てていけたなら、とても幸せな気持ちになると思いませんか？

中には「本当？」と思うようなエピソードもありますが、「おなかにいる赤ちゃんがそんな風に感じているんだ。」「生まれてくるときは、こんな風に変なんだ。」と考えるだけで、前向きな気持ちで子どもを迎えることができるように思います。これから親になる方へ、また育児に奮闘されている方へ、ぜひ読んでいただき温まっていたいただければと思います。

文献

子ども虐待という第四の発達障害 / 杉山登志郎著 学研 2007 (学研のヒューマンケアブックス)

子どもは親を選んで生まれてくる / 池川明著 日本教文社 2007



イラスト・メディアデザインコース4年 沼尾 春香

子ども時代、我が家にはあまり「読書」という習慣が無かったように思います。「読書」といえば、「夏休み・冬休みの宿題」というイメージが強かったように思います。

そんな私も仕事をしてからは必然的に「本を読む」ということが増えました。学生の時には、本を読んでも「ピンとこない」、「実感が沸かない」、というのが正直な思いでした。

しかし、仕事をしてからは、「わかる、わかる!」「そうなんだ」と「ストンと落ちる」という実感を得ることが多いと感じます。

現在私は、育児支援や子ども虐待予防などに関心があり、修士課程においてもテーマとして取り組んでいます。1冊目は、この分野に興味を持ち、「ずっと取り組んでいきたい!」と考えるきっかけとなる出来事と本についてお話ししたいと思います。

児童青年精神医学の専門である杉山登志郎氏による、「子ども虐待という第四の発達障害」という著書をご紹介します。

本書は、虐待と発達障害の関係に焦点が当てられ、子ども虐待に生じる発達上の障害の理解とその対応を、発達障害臨床という視点からの整理と啓発を目的として書かれている。子ども虐待が心身を巻き込んだ発達障害群をつくること、虐待によって生じたマイナスの影響は、時として最良の対応を行ったとしても、生涯にわたり、さらには世代を超えた影響を及ぼすことが述べられている。また、このような深刻な状況の報告だけではなく、どのような支援やシステムが必要かについて具体的に示されており、親子に関わる専門家にとって指針となり得る本であると思います。

この本が自分にとって衝撃だったのは、タイトルのインパクトもありますが、本書に描かれているような親子との出会いによりこの本に出会ったからだと思います。母子保健の分野に従事した当初は、「子ども虐待」という言葉は知っていても、どれほど子どもの育ちに影響するかという事に対する実感、重みを感じる事ができていなかったと思います。「その親子に起こっていることを少しでも理解したい」と思っていた時に、この本を薦められ、子

床はひんやりとして冷たくて、眼を覚ますにはちょうどいいので本にだらしない集中したい時には、そこに仰向けに寝そべるのが一番いい方法として認識しています。(ベッドやソファよりも)例えば、何もなくてもいい日の朝、起きて自分の呼吸を確かめたり、その日の天気を味わったりすると、だんだん準備が整います。(本とかみ合う為に"タイミングの努力"をしなくてはいけないから)そうしてやっと、読みかけの本あるいはまだ読んでいない本を手にとって、撫でて、その垂直さにうっとりしながら眼と平行に開きます。

読みながらお話の方に上昇していくときには、体の方はせまい部屋に残されて、きーん、と冷蔵庫が鳴る音がするのがかすかにわかるのですが、私はとても集中して、誰も確かめた人はいないけれどもしばらく消えてしまいます。

そのうちこの姿勢はひどく疲れるので、最初は肘と首に僅かだけ痛みを覚えてしまって、急いで帰って来て、読みかけの隙間と握手しながら、それをたいていはお腹の上においています。なぜならお腹の上は本を置くのにちょうどいい場所だからです。(距離的に：頭と両足の中間地点)高校生くらいの体育の時間に女の子同士で寝そべて、へっこんだ所を触りあって、これくらいやせられたらいいね、と目標にしていたまさにその場所です。お腹は重力でだいぶひびわれ、簡易的な本棚に変身し、実際はどちらかという本を乗せる器という言い方が適切な形態になります。

眼を閉じたり開けたりしながら、直前まで読んでいたお話を思い出して、どんな景色で誰が何を何を考えていたのかイメージしてみます。天井はたいていどの家でも白いのではないかと思うのですが、それがスクリーンになり好きなだけ思い出し投影することが可能です。(天井が黒とかピンクだったらもっと違うものが見えるかもしれないなとも思います。)だいたい、気がつくと節々の痛みは治まっていて仕切り直し、また私は鋭くなって文字を追い、消え始めます。

読んだりずきずき痛んだり何度も繰り返すうちに、この体勢では体中がだるくなってしまいます。疲れてしまいます。でも、そこから重要で、そこからそれを逆手に取って今度は自分にたいして形勢逆転を試みます。少しでも痛みを感じる場所を見つけたら、その部分に念じてみます。今読んだところ、忘れたくないきれいな言い回し、びっくりするようなぴったりの比喻を、首筋、太もも、手首、かかとに、忘れないように、あるとき、忘れた時でも体の方が痛みと一緒に教えてくれるように、心が体とうまくやれるように、祈りに近いものを込めて。効果があるかどうかわかるのはクラクラするほど時間が経ってからだと思うのですが、一つの儀式として、読むことと私の間に何か大切に特別な関係をもたらし続けている気がします。

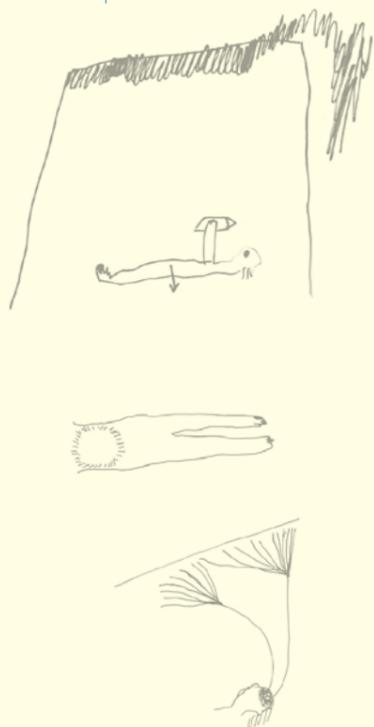
しかし、私は全身で本を読んだんだという自負を持ってさらには他人の頭の中を私の体中から放出させたい、延命させてあげられたらと望みながらも、でもそんな風に考えることは傲慢で、無くなりたいたいかもしれないと思うと最終的には心が痛むのです。

私のおすすめ

予告された殺人の記録 / G.ガルシア=マルケス著;野谷文昭訳 新潮社 1983 (新潮・現代世界の文学) (芸術の森2F開架 963/Gar)

エル・スール / アデライダ・ガルシア=モラレス著;野谷文昭,熊倉靖子訳 インスクリプト 2009

パタゴニア / ブルース・チャトウィン著; 芹沢真理子訳;改訂新版 めるくまー 1998 (芸術の森2F開架 953/Cha)



イラスト・メディアデザインコース4年 鈴木 真帆

館外貸出ランキング

NO.1

告白

淡かなえ著
双葉社 2008
芸術の森・2F開架 913.6/Min



NO.2
贖罪
淡かなえ著
東京創元社, 2009
(ミステリ・フロンティア; 55)
芸術の森・2F開架 913.6/Min

NO.4
リトルブレスの楽しみ：
おしゃれなミニコミを
作ってみたら
柳沢小実著
ピエ・ブックス, 2006
芸術の森・2F開架 022.57/Yan

NO.8
新参者
東野圭吾著
講談社, 2009
芸術の森・2F開架 913.6/Hig

NO.3
1Q84
(ichi-kew-hachi-yon) :
a novel ; book 1
村上春樹著
新潮社, 2009
芸術の森・2F開架 913.6/Mur/1

NO.6
1Q84
(ichi-kew-hachi-yon) :
a novel ; book 2
村上春樹著
新潮社, 2009
芸術の森・2F開架 913.6/Mur/2

NO.9
Photoshopデザインラボ：
プロに学ぶ、一生枯れない永久不滅テクニック
藤本圭著
ソフトバンククリエイティブ, 2008
(a.D Design Lab ; Issue1 vol.1)
芸術の森・2F開架 007.642/Fuj

NO.4
ナチュラル・サスティナブル：
生きる建築のすがた
彦根アンドレア著
鹿島出版会, 2009
芸術の森・2F開架 526.33/Hik

NO.7
建築家なしの建築
B.Jルドフスキー著；渡辺武信訳
鹿島出版会, 1984
(SD選書；184)
芸術の森・1F文庫・新書 080/Sds/184

NO.10
Shade 10ガイドブック
shadewriters著
ピー・エヌ・エヌ新社, 2008
芸術の森・2F開架 007.642/Sha

総評

話題の村上春樹の「1Q84」を抑えて、淡かなえの作品が1位・2位を独占しました。1位の「告白」は映画化され、人気を後押ししたようです。今年には建築やソフトウェアなど学科に関する資料もランクインし、研究の一環として図書館を利用している様子が伺える結果となったのではないのでしょうか。(芸術の森キャンパス・ライブラリー司書 鈴木 奈緒子・佐藤 有希子)

館内視聴ランキング

NO.1

時をかける少女
細田守監督；筒井康隆原作；奥寺佐渡子脚本、
2007 (kadokawa anime).v.
芸術の森・1FAV 778.77/Tok



時をかける少女 ¥4,700 (税込¥4,935)
発売元：角川書店
©「時をかける少女」製作委員会 2006

NO.2
This is it
directed by Kenny Ortega,
2010. v.
芸術の森・1FAV 778/Thi

NO.5
アフタースクール
内田けんじ監督・脚本, 2008. v.
芸術の森・1FAV 778/Aft

NO.9
Enchanted
directed by Kevin Lima ; Written
by Bill Kelly.2-disc special ed.,
2008. (Disney DVD). v.
芸術の森・1FAV 778/Enc

NO.3
めがね
荻上直子監督・脚本, 2007. v.
芸術の森・1FAV 778/Meg

NO.6
スカイ・クロラ
= The sky crawlers
押井守監督；森博嗣原作；伊藤ちひろ
脚本；「スカイ・クロラ」製作委員会
製作, 2009. v.
芸術の森・1FAV 778.77/Sky

NO.10
ワンダフルライフ
是枝裕和監督・脚本・編集；
山崎裕撮影, 1998. v.
芸術の森・1FAV 778/Won

The curious case of
Benjamin Button
edited by Kirk Baxter, Angus Wall ; from the short story by F. Scott
Fitzgerald ; screen story by Eric Roth and Robin Swicord ; screenplay
by Eric Roth ; directed by David Fincher. 2-disc ed., 2009. v.
芸術の森・1FAV 778/Ben

NO.7
The dark knight
directed by Christoper Nolan ; screenplay
by Jonathan Nolan and Christoper Nolan.
Two-disc special ed., 2008. v.
芸術の森・1FAV 778/Dar

NO.12
耳をすませば
宮崎駿プロデュース・脚本・絵コンテ；
近藤喜文監督；スタジオジブリ制作, 1995.
(ジブリがいっぱいCOLLECTION / スタジオ
ジブリ制作；.Studio Ghibli DVD Video). v.
芸術の森・1FAV 778.77/GHI

総評

今年にはアニメ・邦画・洋画・音楽など多彩なランキングとなりました。昨年引き続き、アニメ作品が好評です。第1位には「時をかける少女」がランクインしました。2007年の作品ですが、根強い人気です。第2位の「This is it」は、2009年に急逝したマイケル・ジャクソンの、ライブのリハーサル映像をドキュメンタリー化したものです。M-Jの魅力を再確認出来る一作となりました。(芸術の森キャンパス・ライブラリー司書 鈴木 奈緒子・佐藤 有希子)

附属図書館貸出・視聴ランキング

貸出日:2009/10/01 ~ 2010/09/30

館外貸出ランキング

NO.1

疾患と看護過程実践ガイド

長谷川雅美, 林優子監修. 改訂版.
医学芸術新社 2007 (BN books)
桑園・開架 492.914/Shi



NO.2
個別性を重視した
認知症患者のケア
松下正明, 金川克子監修. 改訂版.
医学芸術社, 2007.
桑園・開架 492.929/Kob

NO.5
ナースのためのくすりの事典
守安洋子著；1991年版・2010年版
(第19版)へるす出版, 1991.
桑園・開架 499.1/Mor

NO.9
疾患別看護過程セミナー
中村あや〔ほか〕編集担当.
統合改訂版. 医学芸術社, 2006.
桑園・開架 492.914/Nak

NO.3
New 疾患別看護過程の展開
学研, 1999.
桑園・開架 492.914/Yam

NO.6
疾患別病態関連マップ
山口瑞穂子, 関口恵子監修. 第3版.
学研, 2008.
桑園・開架 492.914/Shi

NO.10
症状・徴候別アセスメントと
看護ケア
池松裕子, 山内豊明編集.
医学芸術新社, 2008. (BN books).
桑園・開架 492.913/Ike

NO.4
やさしい看護理論：現場で
活かせるベースの考え方
城ヶ端初子著. メディカ出版,
2000. (メディカ・マイブック
シリーズ；1).
桑園・開架 492.901/Jog

NO.7
実習記録の書き方がわかる！：
看護過程展開ガイド：ヘンダーソン、
ゴードン、NANDAの枠組みによる
任和子編著. 照林社, 2006.
(看護学生必修シリーズ).
桑園・開架 492.914/Nin

NO.10
認知症高齢者の看護
中島紀恵子責任編集；太田喜久子,
奥野茂代, 水谷信子編集.
医歯薬出版, 2007.
桑園・開架 492.929/Nak

総評

1位の「疾患と看護過程実践ガイド」は昨年の5位からランクアップ。今回も、疾患ごとに解説し、患者を総合的に理解できる資料が多くランクインしました。その他、老人看護、認知症に関する資料が順位を上げています。(桑園キャンパス・ライブラリー司書 近藤 真弓)

館内視聴ランキング

NO.1

留置針を用いた点滴静脈注射
花田妙子, 東清己監修. ビデオ・バック・ニッポン,
2005. (看護師がおこなう静脈注射 / 花田妙子,
東清己[監修]; 4). v.
桑園・AV 492.91/Kan/4



NO.2
採血
花田妙子, 東清己監修. ビデオ・
バック・ニッポン, 2005. (看護
師がおこなう静脈注射 / 花田妙子,
東清己[監修]; 1). v.
桑園・AV 492.91/Kan/1

NO.6
分娩第一期の看護技術
日本看護協会企画. 日本看護協会, 1998. (看護技
術学習支援ビデオシリーズ；母性看護学/ボセイ
カンゴカク；1. 新しい家族誕生への支援/アタラ
シイカソクタンジウエノシエン；1). v.
桑園・AV 492.924/Bos/1

NO.9
分娩第二期から第四期
までの看護技術
日本看護協会企画. 日本看護協会, 1998. (看護技
術学習支援ビデオシリーズ；母性看護学/ボセイ
カンゴカク；2. 新しい家族誕生への支援/アタラシイカソクタンジウエノシエン；2). v.
桑園・AV 492.924/Bos/2

NO.3
在宅介護の基礎と実践
NHK エデュケーション制作；セット,
Vol.1. NHK エデュケーション, 2007.
桑園・AV 369.261/Zai

NO.6
SSTの実際：基本訓練モデル
製作責任者 前田ケイ；初級編.
日本ルーテル神学大学社会福祉研., 1995. v.
桑園・AV 492.927/Sst

NO.10
アセスメントに基づく
排泄の援助
石井八恵子〔ほか〕原案作成・制作指導. ビデオ・バック・ニッポン,
2008. (看護実践力向上シリーズ/ビデオ・バック・ニッポン制
作・著作；排泄援助の技術/ハイセリエンジョノギジュツ；1). v.
桑園・AV 492.926/Hai/1

NO.5
輸液ポンプを用いた
点滴静脈注射
花田妙子, 東清己監修. ビデオ・バック・ニッ
ポン, 2005. (看護師がおこなう静脈注射
/ 花田妙子, 東清己[監修]; 5). v.
桑園・AV 492.91/Kan/5

NO.7
お年寄りの心とからだ
インターメディア制作.-インターメディア, 19-
(らくらく安心介護のコツ：老人介護
ビデオシリーズ). v.
桑園・AV 369.26/Oto

NO.10
乳幼児健診の手引き<第1巻>
新宿スタジオ (発売), 1997.
(V-toneビデオライブラリー). v.
桑園・AV 493.92/Nyu/1

総評

今回のランクインには、看護師がおこなう静脈注射のシリーズが4本入っています。傾向として、手技に関する映像がよく見られているようです。昨年度1位の資料もランクインしています。(桑園キャンパス・ライブラリー司書 佐々木 直美)

夏から夏へ

夏から夏へ
佐藤多佳子著 集英社 2010 (集英社文庫)
桑園 文庫・新書コーナー 782.3/Sat

2010年11月広州アジア大会、男子400mリレー予選2組。前大会写真判定で決勝2位に終わった日本チームは、バトンパスミスによりまさかの5着でメダルどころか決勝にも進めませんでした。

4人の選手が400mをつないで走ることから『4継』とも呼ばれているこの競技は個々の持ちタイムだけでは勝てないレースなのです。

2007年夏世界陸上大阪大会で日本チーム(1走塚原直貴・2走末續慎吾・3走高平慎士・4走朝原宣治)はアジア記録で5位。2008年夏北京五輪においては、走力に優る強豪国の相次ぐバトンパスミスと、引継ぎ違反による脱落もあり銅メダルを獲得しました。

遺伝子レベルで走りの適性を証明された、生まれながらのアスリート、先駆者である朝原。その朝原さんのために、朝原さんにメダルを!の想い。一人ひとりの資質とチームワーク。信頼と尊敬で結ばれたメンバーで勝ち取った銅メダルだったのです。

目標を定め一年をかけて身体をつくりあげていく凄さ。個々の練習風景が克明につづられます。どれほど疲労していても、「俺たちは歩けなくても走れますから」と語る彼等。走力を補うために採用したアンダー

桑園キャンパス・ライブラリー司書 逢坂 弘子

ハンドパス練習を何度も何度も繰り返します。レース直前までアクシデントに備える、大阪大会リザーブの小島茂之選手の姿には思わず涙します。

北京後、引退した朝原と長期休養に入った末續。新リレーチームのメンバーはまだ不確定です。誰が?どこを走るのか?

1996年アトランタ5位、2000年シドニー 6位、2004年アテネ4位、2008年北京3位、そして2012年ロンドンへ。後を託された男たちの次の戦いが楽しみです。

『一瞬の風になれ』で陸上にかかる高校生のまっすぐな心を描いた佐藤多佳子のノンフィクション。努力は必ずしも報われないけれど、けっして無駄にはならないとうなずけます。

参考資料

一瞬の風になれ
佐藤多佳子著 講談社 2006
第1部 イチニツイテ
第2部 ヨウイ
第3部 ドン
芸術の森 2F開架 913.6/Sat

ハーバード白熱教室講義録+東大特別授業

マイケル・サンデル著; NHK「ハーバード白熱教室」制作チーム、小林正弥、杉田晶子訳; 上,下 早川書房 2010
芸術の森 2F開架 311.1/San

芸術の森キャンパス・ライブラリー司書 中川 むつ子

本書はTV番組の『ハーバード白熱教室』と東京大学での特別授業に解説を加えたものを書籍化しています。学生との対話形式なので大変読みやすく、また理解しやすい内容となっています。12回の講義のテーマは「正義」です。学生たちの講義への予備知識も素晴らしいですが、大勢の学生を相手に各発言についての質問を重ねることにより要約していく教授の手腕も目を見張るものがあります。先人の哲学理論を踏まえ、提起した問題を身近な社会的事例として考えさせる、もしくは状況を変えて論点を整理する。書いてしまえば簡単なように思えますが、思考の道案内と交通整理をしているようです。哲学に詳しくなくても、読み進めるうちに基本的な理解を深めることができます。

異なる価値観、相反する道徳・信念の中では「正義」をテーマにしたディベートは総意を得ることが出来ないと思います。しかしながら各々の見解と信念による異議があってもお互いの意見に耳を傾けるという姿勢

ほどのテーマでも欠くことのできないものです。昨今、誰かと討論する機会は少なくなっています。意見が違って人間関係が気まづくなりたくない、特に意見を持っていない、理由は様々でしょうが基本姿勢が欠けていることが原因のような気がします。10人いたら10個の考えがあるのは当然です。考え方が違って同意が出来なくても話を聞く柔軟性をなくしたくはありません。

東京大学の特別授業「イチローの年俵は高すぎる?」、「戦争責任を議論する」では日本と米国の国民性が現れているように思えます。米国では「マイケル・ジョーダン」を例に挙げていますが、読み比べてみると面白いです。

この本の後にサンデル氏の『これからの「正義」の話しよう: いまを生き延びるための哲学』を読むと理解が進みます。

イラスト・メディアデザインコース3年 磯野 桂

アートブックフェア初参加!



去る10月18日～11月30日、芸術の森キャンパス・ライブラリーで企画展「アートブックフェア」を開催いたしました。アートブックフェアとは、札幌の芸術の秋を彩るイベント「さっぽろアートステージ」の特別プログラムです。今年は本学を含め13の書店・図書館が参加し、独自の視点で選んだ「アートの入口」となるようなオススメ本を紹介しました。芸術の森キャンパス・ライブラリーでは、アートを気軽に楽しめるような本を中心に、形状が特殊なものやデザイン集など眺めるだけで楽しめる本も展示しました。他の参加団体とは一味違う、多彩なラインナップになったのではないかと思います。

更に今回は上遠野敏先生・山田良先生のご協力の下、入室制限のある特別閲覧室の貴重資料を一部公開しました。先生のご意向により直接資料に触れることができたため、資料を手にとって鑑賞している姿をよく見かけました。先生がそれぞれの資料に付けてくださった解説文も好評だったようです。

アートブックフェアの開催模様は、「さっぽろアートステージ」公式サイト (<http://www.s-artstage.com/>) のスタッフブログから見ることが出来ます。札幌市立大学だけでなく他の団体の開催模様も掲載されておりますのでご覧ください。

また、芸術の森キャンパス・ライブラリー内階段の踊り場では、小規模ながら引き続き特別閲覧室の資料を公開しています。資料の入れ替えは不定期ですので、見逃さないよう図書館へ足繁くお越し下さい。

(芸術の森キャンパス・ライブラリー司書 金田一 瑞穂)



アートブックフェアの模様
手前の机に並べられているのが貴重資料の雑誌 (Visionaire・ヴィジヨネアなど)



「パラディオ図面集 / Ottavio, B.S. 著 中央公論美術出版, 1994」
原著初版 (1776-1783)より復刻 (原著の図版より抜粋)



アートブックフェア学内告知ポスター
デザイン研究科デザイン専攻1年 織笠 晃彦さん作成

リクエストをお寄せ下さい

教養を養うための本であれば勉強に関するものでなくてもリクエストできます。(桑園館に小説をリクエストする場合は、文庫でお願いします。)一定の購入基準があり、ご希望に沿えない場合があります。



札幌市立大学 附属図書館

SAPPORO CITY UNIVERSITY



<http://www.lib.scu.ac.jp/>

編集後記 ▶ デザイン学部 上遠野 敏

第4号の特集は「古きまねぶ」と「良書良薬」でした。表紙の絵画について紹介します。江戸時代の臨済宗古月派の僧、仙厓さんは博多聖福寺の住持を退いた62歳から人々の求めに応じ、禅の境地を分かり易く描き与えました。「指月布袋画賛」はその愛らしさから見る者の心を解放して一瞬にして大好きにさせてしまう力を持っています。お付きの小僧さんは昇ったお月様のあまりの美しさに全身で喜びを表しています。心には一点の曇りもありません。左の臀部から足先までが食べたいほど愛らしいです。布袋さんも今、ここでこの状況に万感の喜びに浸っています。日本絵画史上最高の傑作だと思っています。これほどゆるやかな心を表し、見る者を和やかにしてくれる作品はほかに知りません。「を月様幾つ 十三七ッ」小躍りしそうな賛です。画には月は描かれていません。画面の外に月が表現されています。月は真理であり悟りの境地を現しています。指しているのは、教典を指しているのだと言われています。「不立文字」教典や教義だけを知っても本当の悟りは得られないのだよと仙厓さんは諭しているのです。それに十牛図の関連も読み取ることもできます。八番目の人牛俱忘(にんぎゅうくぼう)は、絶対の無の境地を表して何も描かれていない○のみです。この画面の外はそれを思わせます。それに十番目の入麴垂手(にってんすいしゅ)の布袋さんが童を導く図との類似も見えます。全身でここに居る喜びを爆発させる。それが人々を救済する菩薩行なのだ…。この絵画に心をつかまれた若干19歳の人があった。それが出光興産の創業者の出光佐三さんである。出光美術館の第1号コレクションの始まりです。出光美術館には絵巻の白眉、国宝の「伴大納言絵巻」や名品が沢山ある。日本の芸術を守り伝えていく。それこそ人を導く菩薩行だと思う。「古きまねぶ」は素敵な発見にあふれています。

札幌市立大学附属図書館ニュースレターの のほん第4号

編集 札幌市立大学図書館運営会議

編集長 上遠野 敏

編集 新納 美美

片山めぐみ

発行日 2011年2月1日

発行 札幌市立大学附属図書館

〒005-0864 札幌市南区芸術の森1丁目

事務局 地域連携課 図書館担当

TEL.011-592-2346

制作・印刷 株式会社 プリプレス・センター

ご感想をお聞かせください。
library@scu.ac.jp